

Q1051

分野: 試験制度 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【試験制度】5問免除範囲について、次の記述のうち正しいものはどれか。

- A. 登録講習修了者は、宅建業法20問がすべて免除される。
B. 登録講習修了者は、土地建物の知識及び需給・実務に関する一部の問題が免除され、試験問題数は45問となる。
C. 登録講習修了者も、試験問題数は通常受験者と同じ50問で一切変わらない。
D. 登録講習修了者は、権利関係14問がすべて免除される。

答え・解説

正答: B.

登録講習修了者は、土地建物の知識及び需給・実務に関する一部の問題が免除され、試験問題数は45問となる。

解説:

Bが正解。登録講習修了者は、土地建物の知識及び需給・実務に関する一部の問題が免除され、試験問題数は45問となる。

要点: 5問免除範囲 / 根拠: 試験一部免除・試験方法

Q1052

分野: 試験制度 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【試験制度】登録講習の効力について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- A. 鉄筋コンクリート造は、鉄筋とコンクリートの特性を組み合わせた構造で、耐火性や耐久性に優れるとされる。
B. 登録講習修了者として一部免除を受けるには、修了試験に合格した日から3年以内に行われる試験である必要がある。
C. 台地は、低地に比べると一般に水害リスクが低いが、崖や縁辺部では斜面災害に注意が必要である。
D. 登録講習を受講すれば、修了試験に合格しなくても一部免除を受けられる。

答え・解説

正答: D. 登録講習を受講すれば、修了試験に合格しなくても一部免除を受けられる。

解説:

Dが誤り。正しくは「登録講習修了者として一部免除を受けるには、修了試験に合格した日から3年以内に行われる試験である必要がある。

要点: 登録講習の効力 / 根拠: 試験一部免除

Q1053

分野: 統計 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【統計】宅建試験対策として、次のうち最も適切な記述はどれか。

- A. 令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で上昇した。
B. 令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で下落した。
C. 令和8年地価公示では、地価動向は公表されていない。
D. 令和8年地価公示では、住宅地だけが上昇し商業地は全国平均で下落した。

答え・解説

正答: A.

令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で上昇した。

解説:

Aが正解。令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で上昇した。

要点: 令和8年地価公示 / 根拠: 令和8年地価公示

Q1054

分野: 統計 / 形式: 4択 / 難易度: advanced

【統計】ひっかけ確認。次のうち、誤った理解はどれか。

- A. 令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均は5年連続で下落した。
B. 建物取引では、石綿使用調査の内容などが重要事項説明で問題となることがある。
C. 令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均・住宅地・商業地はいずれも5年連続で上昇し、上昇幅も拡大した。
D. 旧河道は、過去の河川流路であり、軟弱地盤や液状化リスクに注意が必要である。

答え・解説

正答: A. 令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均は5年連続で下落した。

解説:

Aが誤り。正しくは「令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均・住宅地・商業地はいずれも5年連続で上昇し、上昇幅も拡大した。

要点: 地価公示の三大都市圏 / 根拠: 令和8年地価公示

Q1055

分野: 統計 / 形式: 4択 / 難易度: advanced

【統計】アプリ演習: 次の記述のうち、法令・制度の理解として正しいものはどれか。

- A. 令和7年の新設住宅着工戸数は、前年比6.5%増で3年連続の増加であった。
B. 令和7年の新設住宅着工戸数は740,667戸で、前年比6.5%減、3年連続の減少であった。
C. 令和7年の新設住宅着工戸数は、公的統計として公表されていない。
D. 令和7年の新設住宅着工戸数は、100万戸を大きく超えた。

答え・解説

正答: B.

令和7年の新設住宅着工戸数は740,667戸で、前年比6.5%減、3年連続の減少であった。

解説:

Bが正解。令和7年の新設住宅着工戸数は740,667戸で、前年比6.5%減、3年連続の減少であった。

要点: 新設住宅着工戸数 / 根拠: 建築着工統計調査報告 令和7年計

Q1056

分野: 統計 / 形式: 4択 / 難易度: advanced

【統計】実務判断として、次のうち誤っているものはどれか。

- A. 台地は、低地に比べると一般に水害リスクが低いが、崖や縁辺部では斜面災害に注意が必要である。
- B. 令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で上昇した。
- C. 令和7年の新設住宅着工床面積は56,885千㎡で、前年比6.6%減、4年連続の減少であった。
- D. 新設住宅着工床面積は、国土交通省の建築着工統計では扱われていない。

答え・解説

正答: D. 新設住宅着工床面積は、国土交通省の建築着工統計では扱われていない。

解説:
Dが誤り。正しくは「令和7年の新設住宅着工床面積は56,885千㎡で、前年比6.6%減、4年連続の減少であった。

要点: 新設住宅着工床面積 / 根拠: 建築着工統計調査報告 令和7年計

Q1057

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【土地】自然堤防について、次の記述のうち正しいものはどれか。

- A. 自然堤防は、河川沿いで周囲よりやや高く、後背湿地に比べると排水がよい土地であることが多い。
- B. 自然堤防は、周囲より低く水が集まりやすい湿地である。
- C. 自然堤防は、海底でのみ形成され宅地には関係しない。
- D. 自然堤防は、火山灰だけが堆積してできる急傾斜地である。

答え・解説

正答: A.
自然堤防は、河川沿いで周囲よりやや高く、後背湿地に比べると排水がよい土地であることが多い。

解説:
Aが正解。自然堤防は、河川沿いで周囲よりやや高く、後背湿地に比べると排水がよい土地であることが多い。

要点: 自然堤防 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1058

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【土地】後背湿地について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- A. 後背湿地は、一般に低湿で軟弱地盤となりやすく、浸水リスクに注意が必要である。
- B. 後背湿地は、花崗岩だけでできた硬質地盤である。
- C. 自然堤防は、河川沿いで周囲よりやや高く、後背湿地に比べると排水がよい土地であることが多い。
- D. 埋立地では、地盤沈下や液状化などのリスクに注意する必要がある。

答え・解説

正答: B. 後背湿地は、花崗岩だけでできた硬質地盤である。

解説:
Bが誤り。正しくは「後背湿地は、一般に低湿で軟弱地盤となりやすく、浸水リスクに注意が必要である。

要点: 後背湿地 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1059

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【土地】宅建試験対策として、次のうち最も適切な記述はどれか。

- A. 旧河道では、地盤リスクを確認する必要は一切ない。
- B. 旧河道は、海岸の砂丘だけを指す用語である。
- C. 旧河道は、常に岩盤が露出する最も安全な地盤である。
- D. 旧河道は、過去の河川流路であり、軟弱地盤や液状化リスクに注意が必要である。

答え・解説

正答: D.
旧河道は、過去の河川流路であり、軟弱地盤や液状化リスクに注意が必要である。

解説:
Dが正解。旧河道は、過去の河川流路であり、軟弱地盤や液状化リスクに注意が必要である。

要点: 旧河道 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1060

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【土地】ひっかけ確認。次のうち、誤った理解はどれか。

- A. 登録講習修了者として一部免除を受けるには、修了試験に合格した日から3年以内に行われる試験である必要がある。
- B. 扇状地は、山地から平地へ出るところに砂礫が扇状に堆積した地形で、水はけがよい部分が多い。
- C. 扇状地は、河川下流の低湿地だけをいう。
- D. 旧河道は、過去の河川流路であり、軟弱地盤や液状化リスクに注意が必要である。

答え・解説

正答: C. 扇状地は、河川下流の低湿地だけをいう。

解説:
Cが誤り。正しくは「扇状地は、山地から平地へ出るところに砂礫が扇状に堆積した地形で、水はけがよい部分が多い。

要点: 扇状地 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1061

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【土地】アプリ演習：次の記述のうち、法令・制度の理解として正しいものはどれか。

- A. 台地の縁辺部では、斜面災害を考慮する必要は一切ない。
- B. 台地は、低地に比べると一般に水害リスクが低いが、崖や縁辺部では斜面災害に注意が必要である。
- C. 台地は、低地より常に浸水リスクが高い。
- D. 台地は、すべて人工的に造成された土地である。

答え・解説

正答: B.

台地は、低地に比べると一般に水害リスクが低いですが、崖や縁辺部では斜面災害に注意が必要である。

解説:

Bが正解。台地は、低地に比べると一般に水害リスクが低いですが、崖や縁辺部では斜面災害に注意が必要である。

要点: 台地 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1062

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【土地】実務判断として、次のうち誤っているものはどれか。

- A. 令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均・住宅地・商業地はいずれも5年連続で上昇し、上昇幅も拡大した。
- B. 埋立地では、地盤沈下や液状化などのリスクに注意する必要がある。
- C. 埋立地では、地盤調査をする意味がない。
- D. 鉄筋コンクリート造は、鉄筋とコンクリートの特性を組み合わせた構造で、耐火性や耐久性に優れるとされる。

答え・解説

正答: C. 埋立地では、地盤調査をする意味がない。

解説:

Cが誤り。正しくは「埋立地では、地盤沈下や液状化などのリスクに注意する必要がある。

要点: 埋立地 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1063

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【建物】木造について、次の記述のうち正しいものはどれか。

- A. 木造建物は、建築基準法の構造規制を一切受けない。
- B. 木造建物は、必ず鉄筋コンクリート造より耐火性能が高い。
- C. 木造建物では、湿気やシロアリ対策は一切不要である。
- D. 木造建物は、湿気・腐朽・シロアリ・防火などへの配慮が重要である。

答え・解説

正答: D. 木造建物は、湿気・腐朽・シロアリ・防火などへの配慮が重要である。

解説:

Dが正解。木造建物は、湿気・腐朽・シロアリ・防火などへの配慮が重要である。

要点: 木造 / 根拠: 建物の形質・構造及び種別

Q1064

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【建物】鉄筋コンクリート造について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- A. 台地は、低地に比べると一般に水害リスクが低いですが、崖や縁辺部では斜面災害に注意が必要である。
- B. 建物取引では、石綿使用調査の内容などが重要事項説明で問題となることがある。
- C. 鉄筋コンクリート造は、鉄筋とコンクリートの特性を組み合わせた構造で、耐火性や耐久性に優れるとされる。
- D. 鉄筋コンクリート造では、鉄筋は一切使用されない。

答え・解説

正答: D. 鉄筋コンクリート造では、鉄筋は一切使用されない。

解説:

Dが誤り。正しくは「鉄筋コンクリート造は、鉄筋とコンクリートの特性を組み合わせた構造で、耐火性や耐久性に優れるとされる。

要点: 鉄筋コンクリート造 / 根拠: 建物の形質・構造及び種別

Q1065

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【建物】宅建試験対策として、次のうち最も適切な記述はどれか。

- A. 鉄骨造は、柱や梁など主要な骨組みに鋼材を用いる構造である。
- B. 鉄骨造では、鋼材は一切用いられない。
- C. 鉄骨造は、必ず木造と同じ材料だけで構成される。
- D. 鉄骨造は、主要な骨組みにわらだけを用いる構造である。

答え・解説

正答: A. 鉄骨造は、柱や梁など主要な骨組みに鋼材を用いる構造である。

解説:

Aが正解。鉄骨造は、柱や梁など主要な骨組みに鋼材を用いる構造である。

要点: 鉄骨造 / 根拠: 建物の形質・構造及び種別

Q1066

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【建物】ひっかけ確認。次のうち、誤った理解はどれか。

- A. 建物の安全性を考えるうえで、建築時期や耐震基準への適合状況は重要な確認事項である。
- B. 令和7年の新設住宅着工戸数は740,667戸で、前年比6.5%減、3年連続の減少であった。
- C. 建物取引では、石綿使用調査の内容などが重要事項説明で問題となることがある。
- D. 建物の耐震性は、建築時期や基準への適合状況と一切関係しない。

答え・解説

正答: D. 建物の耐震性は、建築時期や基準への適合状況と一切関係しない。

解説:
Dが誤り。正しくは「建物の安全性を考えるうえで、建築時期や耐震基準への適合状況は重要な確認事項である。」

要点: 耐震基準 / 根拠: 建物の形質・構造及び種別

Q1067

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: advanced

【建物】アプリ演習：次の記述のうち、法令・制度の理解として正しいものはどれか。

- A. 建物取引では、石綿使用調査の内容などが重要事項説明で問題となることがある。
- B. 石綿使用調査の内容は、不動産取引では常に説明対象外である。
- C. 石綿に関する事項は、宅建業法上まったく扱われない。
- D. 石綿は、土地の地目だけを表す用語である。

答え・解説

正答: A.
建物取引では、石綿使用調査の内容などが重要事項説明で問題となることがある。

解説:
Aが正解。建物取引では、石綿使用調査の内容などが重要事項説明で問題となることがある。

要点: アスベスト調査 / 根拠: 宅建業法35条・施行規則

Q1068

分野: 試験制度 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【試験制度】実務判断として、次のうち誤っているものはどれか。

- A. 登録講習修了者も、試験問題数は通常受験者と同じ50問で一切変わらない。
- B. 旧河道は、過去の河川流路であり、軟弱地盤や液状化リスクに注意が必要である。
- C. 令和7年の新設住宅着工戸数は740,667戸で、前年比6.5%減、3年連続の減少であった。
- D. 登録講習修了者は、土地建物の知識及び需給・実務に関する一部の問題が免除され、試験問題数は45問となる。

答え・解説

正答: A.
登録講習修了者も、試験問題数は通常受験者と同じ50問で一切変わらない。

解説:
Aが誤り。正しくは「登録講習修了者は、土地建物の知識及び需給・実務に関する一部の問題が免除され、試験問題数は45問となる。」

要点: 5問免除範囲 / 根拠: 試験一部免除・試験方法

Q1069

分野: 試験制度 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【試験制度】登録講習の効力について、次の記述のうち正しいものはどれか。

- A. 登録講習修了者は、宅建試験を受験しなくても宅建士になれる。
- B. 登録講習修了者として一部免除を受けるには、修了試験に合格した日から3年以内に行われる試験である必要がある。
- C. 登録講習を受講すれば、修了試験に合格しなくても一部免除を受けられる。
- D. 登録講習修了者の一部免除は、修了後30年間有効である。

答え・解説

正答: B.
登録講習修了者として一部免除を受けるには、修了試験に合格した日から3年以内に行われる試験である必要がある。

解説:
Bが正解。登録講習修了者として一部免除を受けるには、修了試験に合格した日から3年以内に行われる試験である必要がある。

要点: 登録講習の効力 / 根拠: 試験一部免除

Q1070

分野: 統計 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【統計】令和8年地価公示について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- A. 令和8年地価公示では、住宅地だけが上昇し商業地は全国平均で下落した。
- B. 令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で上昇した。
- C. 登録講習修了者として一部免除を受けるには、修了試験に合格した日から3年以内に行われる試験である必要がある。
- D. 自然堤防は、河川沿いで周囲よりやや高く、後背湿地に比べると排水がよい土地であることが多い。

答え・解説

正答: A. 令和8年地価公示では、住宅地だけが上昇し商業地は全国平均で下落した。

解説:
Aが誤り。正しくは「令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で上昇した。」

要点: 令和8年地価公示 / 根拠: 令和8年地価公示

Q1071

分野: 統計 / 形式: 4択 / 難易度: advanced

【統計】宅建試験対策として、次のうち最も適切な記述はどれか。

- A. 令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均は5年連続で下落した。
- B. 令和8年地価公示では、三大都市圏の住宅地だけが公表され、全用途平均は公表されない。
- C. 令和8年地価公示では、三大都市圏の商業地は公表対象外である。
- D. 令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均・住宅地・商業地はいずれも5年連続で上昇し、上昇幅も拡大した。

答え・解説

正答: D.

令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均・住宅地・商業地はいずれも5年連続で上昇し、上昇幅も拡大した。

解説:

Dが正解。令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均・住宅地・商業地はいずれも5年連続で上昇し、上昇幅も拡大した。

要点: 地価公示の三大都市圏 / 根拠: 令和8年地価公示

Q1072

分野: 統計 / 形式: 4択 / 難易度: advanced

【統計】ひっかけ確認。次のうち、誤った理解はどれか。

- A. 鉄筋コンクリート造は、鉄筋とコンクリートの特性を組み合わせた構造で、耐火性や耐久性に優れるとされる。
- B. 令和7年の新設住宅着工戸数は、前年比6.5%増で3年連続の増加であった。
- C. 建物の安全性を考えるうえで、建築時期や耐震基準への適合状況は重要な確認事項である。
- D. 令和7年の新設住宅着工戸数は740,667戸で、前年比6.5%減、3年連続の減少であった。

答え・解説

正答: B. 令和7年の新設住宅着工戸数は、前年比6.5%増で3年連続の増加であった。

解説:

Bが誤り。正しくは「令和7年の新設住宅着工戸数は740,667戸で、前年比6.5%減、3年連続の減少であった。

要点: 新設住宅着工戸数 / 根拠: 建築着工統計調査報告 令和7年計

Q1073

分野: 統計 / 形式: 4択 / 難易度: advanced

【統計】アプリ演習：次の記述のうち、法令・制度の理解として正しいものはどれか。

- A. 令和7年の新設住宅着工床面積は、前年比6.6%増であった。
- B. 新設住宅着工床面積は、国土交通省の建築着工統計では扱われていない。
- C. 令和7年の新設住宅着工床面積は、4年連続の増加であった。
- D. 令和7年の新設住宅着工床面積は56,885千㎡で、前年比6.6%減、4年連続の減少であった。

答え・解説

正答: D.

令和7年の新設住宅着工床面積は56,885千㎡で、前年比6.6%減、4年連続の減少であった。

解説:

Dが正解。令和7年の新設住宅着工床面積は56,885千㎡で、前年比6.6%減、4年連続の減少であった。

要点: 新設住宅着工床面積 / 根拠: 建築着工統計調査報告 令和7年計

Q1074

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【土地】実務判断として、次のうち誤っているものはどれか。

- A. 建物の安全性を考えるうえで、建築時期や耐震基準への適合状況は重要な確認事項である。
- B. 自然堤防は、海底でのみ形成され宅地には関係しない。
- C. 自然堤防は、河川沿いで周囲よりやや高く、後背湿地に比べると排水がよい土地であることが多い。
- D. 旧河道は、過去の河川流路であり、軟弱地盤や液状化リスクに注意が必要である。

答え・解説

正答: B. 自然堤防は、海底でのみ形成され宅地には関係しない。

解説:

Bが誤り。正しくは「自然堤防は、河川沿いで周囲よりやや高く、後背湿地に比べると排水がよい土地であることが多い。

要点: 自然堤防 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1075

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【土地】後背湿地について、次の記述のうち正しいものはどれか。

- A. 後背湿地は、一般に周囲より高く水害リスクが極めて低い土地である。
- B. 後背湿地は、花崗岩だけでできた硬質地盤である。
- C. 後背湿地は、一般に低湿で軟弱地盤となりやすく、浸水リスクに注意が必要である。
- D. 後背湿地は、山頂部の乾燥した平坦地をいう。

答え・解説

正答: C.

後背湿地は、一般に低湿で軟弱地盤となりやすく、浸水リスクに注意が必要である。

解説:

Cが正解。後背湿地は、一般に低湿で軟弱地盤となりやすく、浸水リスクに注意が必要である。

要点: 後背湿地 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1076

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【土地】旧河道について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- A. 自然堤防は、河川沿いで周囲よりやや高く、後背湿地に比べると排水がよい土地であることが多い。
- B. 旧河道は、過去の河川流路であり、軟弱地盤や液状化リスクに注意が必要である。
- C. 旧河道は、海岸の砂丘だけを指す用語である。
- D. 埋立地では、地盤沈下や液状化などのリスクに注意する必要がある。

答え・解説

正答: C. 旧河道は、海岸の砂丘だけを指す用語である。

解説:

Cが誤り。正しくは「旧河道は、過去の河川流路であり、軟弱地盤や液状化リスクに注意が必要である。

要点: 旧河道 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1077

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【土地】宅建試験対策として、次のうち最も適切な記述はどれか。

- A. 扇状地は、山地から平地へ出るところに砂礫が扇状に堆積した地形で、水はけがよい部分が多い。
- B. 扇状地は、河川下流の低湿地だけをいう。
- C. 扇状地では、地下水や湧水が生じることが一切ない。
- D. 扇状地は、泥炭だけで構成される軟弱地盤をいう。

答え・解説

正答: A.

扇状地は、山地から平地へ出るところに砂礫が扇状に堆積した地形で、水はけがよい部分が多い。

解説:

Aが正解。扇状地は、山地から平地へ出るところに砂礫が扇状に堆積した地形で、水はけがよい部分が多い。

要点: 扇状地 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1078

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【土地】ひっかけ確認。次のうち、誤った理解はどれか。

- A. 台地は、低地より常に浸水リスクが高い。
- B. 登録講習修了者として一部免除を受けるには、修了試験に合格した日から3年以内に行われる試験である必要がある。
- C. 台地は、低地に比べると一般に水害リスクが低い。崖や縁辺部では斜面災害に注意が必要である。
- D. 令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均・住宅地・商業地はいずれも5年連続で上昇し、上昇幅も拡大した。

答え・解説

正答: A. 台地は、低地より常に浸水リスクが高い。

解説:

Aが誤り。正しくは「台地は、低地に比べると一般に水害リスクが低い。崖や縁辺部では斜面災害に注意が必要である。

要点: 台地 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1079

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【土地】アプリ演習：次の記述のうち、法令・制度の理解として正しいものはどれか。

- A. 埋立地では、地盤沈下や液状化などのリスクに注意する必要がある。
- B. 埋立地は、必ず山地に存在する自然地形である。
- C. 埋立地では、地盤調査をする意味がない。
- D. 埋立地は、地盤沈下や液状化のリスクが法律上存在しない土地である。

答え・解説

正答: A. 埋立地では、地盤沈下や液状化などのリスクに注意する必要がある。

解説:

Aが正解。埋立地では、地盤沈下や液状化などのリスクに注意する必要がある。

要点: 埋立地 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1080

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【建物】実務判断として、次のうち誤っているものはどれか。

- A. 木造建物は、建築基準法の構造規制を一切受けない。
- B. 鉄骨造は、柱や梁など主要な骨組みに鋼材を用いる構造である。
- C. 令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均・住宅地・商業地はいずれも5年連続で上昇し、上昇幅も拡大した。
- D. 木造建物は、湿気・腐朽・シロアリ・防火などへの配慮が重要である。

答え・解説

正答: A. 木造建物は、建築基準法の構造規制を一切受けない。

解説:

Aが誤り。正しくは「木造建物は、湿気・腐朽・シロアリ・防火などへの配慮が重要である。

要点: 木造 / 根拠: 建物の形質・構造及び種別

Q1081

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【建物】鉄筋コンクリート造について、次の記述のうち正しいものはどれか。

- A. 鉄筋コンクリート造は、木材だけで構成される構造である。
- B. 鉄筋コンクリート造は、鉄筋とコンクリートの特性を組み合わせた構造で、耐火性や耐久性に優れるとされる。
- C. 鉄筋コンクリート造では、鉄筋は一切使用されない。
- D. 鉄筋コンクリート造は、耐火性をまったく期待できない構造である。

答え・解説

正答: B.

鉄筋コンクリート造は、鉄筋とコンクリートの特性を組み合わせた構造で、耐火性や耐久性に優れるとされる。

解説:

Bが正解。鉄筋コンクリート造は、鉄筋とコンクリートの特性を組み合わせた構造で、耐火性や耐久性に優れるとされる。

要点: 鉄筋コンクリート造 / 根拠: 建物の形質・構造及び種別

Q1082

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【建物】鉄骨造について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- A. 令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均・住宅地・商業地はいずれも5年連続で上昇し、上昇幅も拡大した。
- B. 鉄骨造は、柱や梁など主要な骨組みに鋼材を用いる構造である。
- C. 鉄骨造では、鋼材は一切用いられない。
- D. 鉄筋コンクリート造は、鉄筋とコンクリートの特性を組み合わせた構造で、耐火性や耐久性に優れるとされる。

答え・解説

正答: C. 鉄骨造では、鋼材は一切用いられない。

解説:

Cが誤り。正しくは「鉄骨造は、柱や梁など主要な骨組みに鋼材を用いる構造である」。

要点: 鉄骨造 / 根拠: 建物の形質・構造及び種別

Q1083

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【建物】宅建試験対策として、次のうち最も適切な記述はどれか。

- A. 建物の耐震性は、建築時期や基準への適合状況と一切関係しない。
- B. 建物の安全性は、外観の色だけで法律上十分判断できる。
- C. 建物の安全性を考えるうえで、建築時期や耐震基準への適合状況は重要な確認事項である。
- D. 耐震基準は、宅地建物取引では確認してはならない事項である。

答え・解説

正答: C.

建物の安全性を考えるうえで、建築時期や耐震基準への適合状況は重要な確認事項である。

解説:

Cが正解。建物の安全性を考えるうえで、建築時期や耐震基準への適合状況は重要な確認事項である。

要点: 耐震基準 / 根拠: 建物の形質・構造及び種別

Q1084

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: advanced

【建物】ひっかけ確認。次のうち、誤った理解はどれか。

- A. 建物取引では、石綿使用調査の内容などが重要事項説明で問題となることがある。
- B. 木造建物は、湿気・腐朽・シロアリ・防火などへの配慮が重要である。
- C. 石綿使用調査の内容は、不動産取引では常に説明対象外である。
- D. 令和7年の新設住宅着工戸数は740,667戸で、前年比6.5%減、3年連続の減少であった。

答え・解説

正答: C. 石綿使用調査の内容は、不動産取引では常に説明対象外である。

解説:

Cが誤り。正しくは「建物取引では、石綿使用調査の内容などが重要事項説明で問題となることがある」。

要点: アスベスト調査 / 根拠: 宅建業法35条・施行規則

Q1085

分野: 試験制度 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【試験制度】アプリ演習：次の記述のうち、法令・制度の理解として正しいものはどれか。

- A. 登録講習修了者は、土地建物の知識及び需給・実務に関する一部の問題が免除され、試験問題数は45問となる。
- B. 登録講習修了者は、宅建業法20問がすべて免除される。
- C. 登録講習修了者は、権利関係14問がすべて免除される。
- D. 登録講習修了者も、試験問題数は通常受験者と同じ50問で一切変わらない。

答え・解説

正答: A.

登録講習修了者は、土地建物の知識及び需給・実務に関する一部の問題が免除され、試験問題数は45問となる。

解説:

Aが正解。登録講習修了者は、土地建物の知識及び需給・実務に関する一部の問題が免除され、試験問題数は45問となる。

要点: 5問免除範囲 / 根拠: 試験一部免除・試験方法

Q1086

分野: 試験制度 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【試験制度】実務判断として、次のうち誤っているものはどれか。

- A. 登録講習修了者は、宅建試験を受験しなくても宅建士になれる。
- B. 登録講習修了者として一部免除を受けるには、修了試験に合格した日から3年以内に行われる試験である必要がある。
- C. 令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で上昇した。
- D. 鉄骨造は、柱や梁など主要な骨組みに鋼材を用いる構造である。

答え・解説

正答: A. 登録講習修了者は、宅建試験を受験しなくても宅建士になれる。

解説:

Aが誤り。正しくは「登録講習修了者として一部免除を受けるには、修了試験に合格した日から3年以内に行われる試験である必要がある。

要点: 登録講習の効力 / 根拠: 試験一部免除

Q1087

分野: 統計 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【統計】令和8年地価公示について、次の記述のうち正しいものはどれか。

- A. 令和8年地価公示では、地価動向は公表されていない。
- B. 令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で上昇した。
- C. 令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で下落した。
- D. 令和8年地価公示では、住宅地だけが上昇し商業地は全国平均で下落した。

答え・解説

正答: B.

令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で上昇した。

解説:

Bが正解。令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で上昇した。

要点: 令和8年地価公示 / 根拠: 令和8年地価公示

Q1088

分野: 統計 / 形式: 4択 / 難易度: advanced

【統計】地価公示の三大都市圏について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- A. 令和8年地価公示では、三大都市圏の商業地は公表対象外である。
- B. 令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均・住宅地・商業地はいずれも5年連続で上昇し、上昇幅も拡大した。
- C. 後背湿地は、一般に低湿で軟弱地盤となりやすく、浸水リスクに注意が必要である。
- D. 建物取引では、石綿使用調査の内容などが重要事項説明で問題となることがある。

答え・解説

正答: A. 令和8年地価公示では、三大都市圏の商業地は公表対象外である。

解説:

Aが誤り。正しくは「令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均・住宅地・商業地はいずれも5年連続で上昇し、上昇幅も拡大した。

要点: 地価公示の三大都市圏 / 根拠: 令和8年地価公示

Q1089

分野: 統計 / 形式: 4択 / 難易度: advanced

【統計】宅建試験対策として、次のうち最も適切な記述はどれか。

- A. 令和7年の新設住宅着工戸数は、100万戸を大きく超えた。
- B. 令和7年の新設住宅着工戸数は740,667戸で、前年比6.5%減、3年連続の減少であった。
- C. 令和7年の新設住宅着工戸数は、公的統計として公表されていない。
- D. 令和7年の新設住宅着工戸数は、前年比6.5%増で3年連続の増加であった。

答え・解説

正答: B.

令和7年の新設住宅着工戸数は740,667戸で、前年比6.5%減、3年連続の減少であった。

解説:

Bが正解。令和7年の新設住宅着工戸数は740,667戸で、前年比6.5%減、3年連続の減少であった。

要点: 新設住宅着工戸数 / 根拠: 建築着工統計調査報告 令和7年計

Q1090

分野: 統計 / 形式: 4択 / 難易度: advanced

【統計】ひっかけ確認。次のうち、誤った理解はどれか。

- A. 令和7年の新設住宅着工床面積は、前年比6.6%増であった。
- B. 令和7年の新設住宅着工床面積は56,885千㎡で、前年比6.6%減、4年連続の減少であった。
- C. 登録講習修了者は、土地建物の知識及び需給・実務に関する一部の問題が免除され、試験問題数は45問となる。
- D. 扇状地は、山地から平地へ出るところに砂礫が扇状に堆積した地形で、水はけがよい部分が多い。

答え・解説

正答: A. 令和7年の新設住宅着工床面積は、前年比6.6%増であった。

解説:

Aが誤り。正しくは「令和7年の新設住宅着工床面積は56,885千㎡で、前年比6.6%減、4年連続の減少であった。

要点: 新設住宅着工床面積 / 根拠: 建築着工統計調査報告 令和7年計

Q1091

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【土地】アブリ演習：次の記述のうち、法令・制度の理解として正しいものはどれか。

- A. 自然堤防は、河川沿いで周囲よりやや高く、後背湿地に比べると排水がよい土地であることが多い。
- B. 自然堤防は、火山灰だけが堆積してできる急傾斜地である。
- C. 自然堤防は、海底でのみ形成され宅地には関係しない。
- D. 自然堤防は、周囲より低く水が集まりやすい湿地である。

答え・解説

正答: A.

自然堤防は、河川沿いで周囲よりやや高く、後背湿地に比べると排水がよい土地であることが多い。

解説:

Aが正解。自然堤防は、河川沿いで周囲よりやや高く、後背湿地に比べると排水がよい土地であることが多い。

要点: 自然堤防 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1092

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【土地】実務判断として、次のうち誤っているものはどれか。

- A. 後背湿地は、山頂部の乾燥した平坦地をいう。
- B. 後背湿地は、一般に低湿で軟弱地盤となりやすく、浸水リスクに注意が必要である。
- C. 木造建物は、湿気・腐朽・シロアリ・防火などへの配慮が重要である。
- D. 鉄筋コンクリート造は、鉄筋とコンクリートの特性を組み合わせた構造で、耐火性や耐久性に優れるとされる。

答え・解説

正答: A. 後背湿地は、山頂部の乾燥した平坦地をいう。

解説:

Aが誤り。正しくは「後背湿地は、一般に低湿で軟弱地盤となりやすく、浸水リスクに注意が必要である。

要点: 後背湿地 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1093

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【土地】旧河道について、次の記述のうち正しいものはどれか。

- A. 旧河道は、過去の河川流路であり、軟弱地盤や液状化リスクに注意が必要である。
- B. 旧河道では、地盤リスクを確認する必要は一切ない。
- C. 旧河道は、常に岩盤が露出する最も安全な地盤である。
- D. 旧河道は、海岸の砂丘だけを指す用語である。

答え・解説

正答: A.

旧河道は、過去の河川流路であり、軟弱地盤や液状化リスクに注意が必要である。

解説:

Aが正解。旧河道は、過去の河川流路であり、軟弱地盤や液状化リスクに注意が必要である。

要点: 旧河道 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1094

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【土地】扇状地について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- A. 扇状地は、泥炭だけで構成される軟弱地盤をいう。
- B. 扇状地は、山地から平地へ出るところに砂礫が扇状に堆積した地形で、水はけがよい部分が多い。
- C. 木造建物は、湿気・腐朽・シロアリ・防火などへの配慮が重要である。
- D. 登録講習修了者は、土地建物の知識及び需給・実務に関する一部の問題が免除され、試験問題数は45問となる。

答え・解説

正答: A. 扇状地は、泥炭だけで構成される軟弱地盤をいう。

解説:

Aが誤り。正しくは「扇状地は、山地から平地へ出るところに砂礫が扇状に堆積した地形で、水はけがよい部分が多い。

要点: 扇状地 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1095

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【土地】宅建試験対策として、次のうち最も適切な記述はどれか。

- A. 台地は、低地より常に浸水リスクが高い。
- B. 台地は、すべて人工的に造成された土地である。
- C. 台地は、低地に比べると一般に水害リスクが低い、崖や縁辺部では斜面災害に注意が必要である。
- D. 台地の縁辺部では、斜面災害を考慮する必要は一切ない。

答え・解説

正答: C.

台地は、低地に比べると一般に水害リスクが低い、崖や縁辺部では斜面災害に注意が必要である。

解説:

Cが正解。台地は、低地に比べると一般に水害リスクが低い、崖や縁辺部では斜面災害に注意が必要である。

要点: 台地 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1096

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【土地】ひっかけ確認。次のうち、誤った理解はどれか。

- A. 埋立地は、地盤沈下や液状化のリスクが法律上存在しない土地である。
- B. 埋立地では、地盤沈下や液状化などのリスクに注意する必要がある。
- C. 旧河道は、過去の河川流路であり、軟弱地盤や液状化リスクに注意が必要である。
- D. 登録講習修了者は、土地建物の知識及び需給・実務に関する一部の問題が免除され、試験問題数は45問となる。

答え・解説

正答: A. 埋立地は、地盤沈下や液状化のリスクが法律上存在しない土地である。

解説:

Aが誤り。正しくは「埋立地では、地盤沈下や液状化などのリスクに注意する必要がある。

要点: 埋立地 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1097

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【建物】アプリ演習：次の記述のうち、法令・制度の理解として正しいものはどれか。

- A. 木造建物では、湿気やシロアリ対策は一切不要である。
- B. 木造建物は、必ず鉄筋コンクリート造より耐火性能が高い。
- C. 木造建物は、湿気・腐朽・シロアリ・防火などへの配慮が重要である。
- D. 木造建物は、建築基準法の構造規制を一切受けない。

答え・解説

正答: C. 木造建物は、湿気・腐朽・シロアリ・防火などへの配慮が重要である。

解説:

Cが正解。木造建物は、湿気・腐朽・シロアリ・防火などへの配慮が重要である。

要点: 木造 / 根拠: 建物の形質・構造及び種別

Q1098

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【建物】実務判断として、次のうち誤っているものはどれか。

- A. 鉄筋コンクリート造は、鉄筋とコンクリートの特性を組み合わせた構造で、耐火性や耐久性に優れるとされる。
- B. 鉄筋コンクリート造は、耐火性をまったく期待できない構造である。
- C. 後背湿地は、一般に低湿で軟弱地盤となりやすく、浸水リスクに注意が必要である。
- D. 令和7年の新設住宅着工床面積は56,885千㎡で、前年比6.6%減、4年連続の減少であった。

答え・解説

正答: B. 鉄筋コンクリート造は、耐火性をまったく期待できない構造である。

解説:

Bが誤り。正しくは「鉄筋コンクリート造は、鉄筋とコンクリートの特性を組み合わせた構造で、耐火性や耐久性に優れるとされる。

要点: 鉄筋コンクリート造 / 根拠: 建物の形質・構造及び種別

Q1099

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【建物】鉄骨造について、次の記述のうち正しいものはどれか。

- A. 鉄骨造では、鋼材は一切用いられない。
- B. 鉄骨造は、必ず木造と同じ材料だけで構成される。
- C. 鉄骨造は、柱や梁など主要な骨組みに鋼材を用いる構造である。
- D. 鉄骨造は、主要な骨組みにわらだけを用いる構造である。

答え・解説

正答: C. 鉄骨造は、柱や梁など主要な骨組みに鋼材を用いる構造である。

解説:

Cが正解。鉄骨造は、柱や梁など主要な骨組みに鋼材を用いる構造である。

要点: 鉄骨造 / 根拠: 建物の形質・構造及び種別

Q1100

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【建物】耐震基準について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- A. 耐震基準は、宅地建物取引では確認してはならない事項である。
- B. 自然堤防は、河川沿いで周囲よりやや高く、後背湿地に比べると排水がよい土地であることが多い。
- C. 建物取引では、石綿使用調査の内容などが重要事項説明で問題となることがある。
- D. 建物の安全性を考えるうえで、建築時期や耐震基準への適合状況は重要な確認事項である。

答え・解説

正答: A. 耐震基準は、宅地建物取引では確認してはならない事項である。

解説:

Aが誤り。正しくは「建物の安全性を考えるうえで、建築時期や耐震基準への適合状況は重要な確認事項である。

要点: 耐震基準 / 根拠: 建物の形質・構造及び種別

Q1101

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: advanced

【建物】宅建試験対策として、次のうち最も適切な記述はどれか。

- A. 石綿は、土地の地目だけを表す用語である。
- B. 建物取引では、石綿使用調査の内容などが重要事項説明で問題となることがある。
- C. 石綿に関する事項は、宅建業法上まったく扱われない。
- D. 石綿使用調査の内容は、不動産取引では常に説明対象外である。

答え・解説

正答: B.

建物取引では、石綿使用調査の内容などが重要事項説明で問題となることがある。

解説:

Bが正解。建物取引では、石綿使用調査の内容などが重要事項説明で問題となることがある。

要点: アスベスト調査 / 根拠: 宅建業法35条・施行規則

Q1102

分野: 試験制度 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【試験制度】ひっかけ確認。次のうち、誤った理解はどれか。

- A. 登録講習修了者は、権利関係14問がすべて免除される。
- B. 埋立地では、地盤沈下や液化化などのリスクに注意する必要がある。
- C. 木造建物は、湿気・腐朽・シロアリ・防火などへの配慮が重要である。
- D. 登録講習修了者は、土地建物の知識及び需給・実務に関する一部の問題が免除され、試験問題数は45問となる。

答え・解説

正答: A. 登録講習修了者は、権利関係14問がすべて免除される。

解説:

Aが誤り。正しくは「登録講習修了者は、土地建物の知識及び需給・実務に関する一部の問題が免除され、試験問題数は45問となる。

要点: 5問免除範囲 / 根拠: 試験一部免除・試験方法

Q1103

分野: 試験制度 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【試験制度】アプリ演習: 次の記述のうち、法令・制度の理解として正しいものはどれか。

- A. 登録講習修了者として一部免除を受けるには、修了試験に合格した日から3年以内に行われる試験である必要がある。
- B. 登録講習を受講すれば、修了試験に合格しなくても一部免除を受けられる。
- C. 登録講習修了者は、宅建試験を受験しなくても宅建士になれる。
- D. 登録講習修了者の一部免除は、修了後30年間有効である。

答え・解説

正答: A.

登録講習修了者として一部免除を受けるには、修了試験に合格した日から3年以内に行われる試験である必要がある。

解説:

Aが正解。登録講習修了者として一部免除を受けるには、修了試験に合格した日から3年以内に行われる試験である必要がある。

要点: 登録講習の効力 / 根拠: 試験一部免除

Q1104

分野: 統計 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【統計】実務判断として、次のうち誤っているものはどれか。

- A. 令和8年地価公示では、地価動向は公表されていない。
- B. 鉄骨造は、柱や梁など主要な骨組みに鋼材を用いる構造である。
- C. 令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で上昇した。
- D. 令和7年の新設住宅着工床面積は56,885千㎡で、前年比6.6%減、4年連続の減少であった。

答え・解説

正答: A. 令和8年地価公示では、地価動向は公表されていない。

解説:

Aが誤り。正しくは「令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で上昇した。

要点: 令和8年地価公示 / 根拠: 令和8年地価公示

Q1105

分野: 統計 / 形式: 4択 / 難易度: advanced

【統計】地価公示の三大都市圏について、次の記述のうち正しいものはどれか。

- A. 令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均は5年連続で下落した。
- B. 令和8年地価公示では、三大都市圏の商業地は公表対象外である。
- C. 令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均・住宅地・商業地はいずれも5年連続で上昇し、上昇幅も拡大した。
- D. 令和8年地価公示では、三大都市圏の住宅地だけが公表され、全用途平均は公表されない。

答え・解説

正答: C.

令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均・住宅地・商業地はいずれも5年連続で上昇し、上昇幅も拡大した。

解説:

Cが正解。令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均・住宅地・商業地はいずれも5年連続で上昇し、上昇幅も拡大した。

要点: 地価公示の三大都市圏 / 根拠: 令和8年地価公示

Q1106

分野: 統計 / 形式: 4択 / 難易度: advanced

【統計】新設住宅着工戸数について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- A. 令和7年の新設住宅着工戸数は、100万戸を大きく超えた。
- B. 令和7年の新設住宅着工戸数は740,667戸で、前年比6.5%減、3年連続の減少であった。
- C. 自然堤防は、河川沿いで周囲よりやや高く、後背湿地に比べると排水がよい土地であることが多い。
- D. 令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で上昇した。

答え・解説

正答: A. 令和7年の新設住宅着工戸数は、100万戸を大きく超えた。

解説:

Aが誤り。正しくは「令和7年の新設住宅着工戸数は740,667戸で、前年比6.5%減、3年連続の減少であった。

要点: 新設住宅着工戸数 / 根拠: 建築着工統計調査報告 令和7年計

Q1107

分野: 統計 / 形式: 4択 / 難易度: advanced

【統計】宅建試験対策として、次のうち最も適切な記述はどれか。

- A. 新設住宅着工床面積は、国土交通省の建築着工統計では扱われていない。
- B. 令和7年の新設住宅着工床面積は56,885千㎡で、前年比6.6%減、4年連続の減少であった。
- C. 令和7年の新設住宅着工床面積は、4年連続の増加であった。
- D. 令和7年の新設住宅着工床面積は、前年比6.6%増であった。

答え・解説

正答: B.

令和7年の新設住宅着工床面積は56,885千㎡で、前年比6.6%減、4年連続の減少であった。

解説:

Bが正解。令和7年の新設住宅着工床面積は56,885千㎡で、前年比6.6%減、4年連続の減少であった。

要点: 新設住宅着工床面積 / 根拠: 建築着工統計調査報告 令和7年計

Q1108

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【土地】ひっかけ確認。次のうち、誤った理解はどれか。

- A. 扇状地は、山地から平地へ出るところに砂礫が扇状に堆積した地形で、水はけがよい部分が多い。
- B. 自然堤防は、周囲より低く水が集まりやすい湿地である。
- C. 自然堤防は、河川沿いで周囲よりやや高く、後背湿地に比べると排水がよい土地であることが多い。
- D. 登録講習修了者として一部免除を受けるには、修了試験に合格した日から3年以内に行われる試験である必要がある。

答え・解説

正答: B. 自然堤防は、周囲より低く水が集まりやすい湿地である。

解説:

Bが誤り。正しくは「自然堤防は、河川沿いで周囲よりやや高く、後背湿地に比べると排水がよい土地であることが多い。

要点: 自然堤防 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1109

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【土地】アプリ演習：次の記述のうち、法令・制度の理解として正しいものはどれか。

- A. 後背湿地は、一般に周囲より高く水害リスクが極めて低い土地である。
- B. 後背湿地は、花崗岩だけでできた硬質地盤である。
- C. 後背湿地は、山頂部の乾燥した平坦地をいう。
- D. 後背湿地は、一般に低湿で軟弱地盤となりやすく、浸水リスクに注意が必要である。

答え・解説

正答: D.

後背湿地は、一般に低湿で軟弱地盤となりやすく、浸水リスクに注意が必要である。

解説:

Dが正解。後背湿地は、一般に低湿で軟弱地盤となりやすく、浸水リスクに注意が必要である。

要点: 後背湿地 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1110

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【土地】実務判断として、次のうち誤っているものはどれか。

- A. 登録講習修了者として一部免除を受けるには、修了試験に合格した日から3年以内に行われる試験である必要がある。
- B. 旧河道では、地盤リスクを確認する必要は一切ない。
- C. 建物取引では、石綿使用調査の内容などが重要事項説明で問題となることがある。
- D. 旧河道は、過去の河川流路であり、軟弱地盤や液状化リスクに注意が必要である。

答え・解説

正答: B. 旧河道では、地盤リスクを確認する必要は一切ない。

解説:

Bが誤り。正しくは「旧河道は、過去の河川流路であり、軟弱地盤や液状化リスクに注意が必要である。

要点: 旧河道 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1111

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【土地】扇状地について、次の記述のうち正しいものはどれか。

- A. 扇状地は、泥炭だけで構成される軟弱地盤をいう。
- B. 扇状地は、山地から平地へ出るところに砂礫が扇状に堆積した地形で、水はけがよい部分が多い。
- C. 扇状地は、河川下流の低湿地だけをいう。
- D. 扇状地では、地下水や湧水が生じることは一切ない。

答え・解説

正答: B.

扇状地は、山地から平地へ出るところに砂礫が扇状に堆積した地形で、水はけがよい部分が多い。

解説:

Bが正解。扇状地は、山地から平地へ出るところに砂礫が扇状に堆積した地形で、水はけがよい部分が多い。

要点: 扇状地 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1112

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【土地】台地について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- A. 自然堤防は、河川沿いで周囲よりやや高く、後背湿地に比べると排水がよい土地であることが多い。
- B. 台地は、低地に比べると一般に水害リスクが低いが、崖や縁辺部では斜面災害に注意が必要である。
- C. 台地の縁辺部では、斜面災害を考慮する必要は一切ない。
- D. 埋立地では、地盤沈下や液状化などのリスクに注意する必要がある。

答え・解説

正答: C. 台地の縁辺部では、斜面災害を考慮する必要は一切ない。

解説:

Cが誤り。正しくは「台地は、低地に比べると一般に水害リスクが低いが、崖や縁辺部では斜面災害に注意が必要である。

要点: 台地 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1113

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【土地】宅建試験対策として、次のうち最も適切な記述はどれか。

- A. 埋立地は、必ず山地に存在する自然地形である。
- B. 埋立地は、地盤沈下や液状化のリスクが法律上存在しない土地である。
- C. 埋立地では、地盤調査をする意味がない。
- D. 埋立地では、地盤沈下や液状化などのリスクに注意する必要がある。

答え・解説

正答: D. 埋立地では、地盤沈下や液状化などのリスクに注意する必要がある。

解説:

Dが正解。埋立地では、地盤沈下や液状化などのリスクに注意する必要がある。

要点: 埋立地 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1114

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【建物】ひっかけ確認。次のうち、誤った理解はどれか。

- A. 埋立地では、地盤沈下や液状化などのリスクに注意する必要がある。
- B. 登録講習修了者は、土地建物の知識及び需給・実務に関する一部の問題が免除され、試験問題数は45問となる。
- C. 木造建物では、湿気やシロアリ対策は一切不要である。
- D. 木造建物は、湿気・腐朽・シロアリ・防火などへの配慮が重要である。

答え・解説

正答: C. 木造建物では、湿気やシロアリ対策は一切不要である。

解説:

Cが誤り。正しくは「木造建物は、湿気・腐朽・シロアリ・防火などへの配慮が重要である。

要点: 木造 / 根拠: 建物の形質・構造及び種別

Q1115

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【建物】アプリ演習：次の記述のうち、法令・制度の理解として正しいものはどれか。

- A. 鉄筋コンクリート造は、鉄筋とコンクリートの特性を組み合わせた構造で、耐火性や耐久性に優れるとされる。
- B. 鉄筋コンクリート造は、木材だけで構成される構造である。
- C. 鉄筋コンクリート造では、鉄筋は一切使用されない。
- D. 鉄筋コンクリート造は、耐火性をまったく期待できない構造である。

答え・解説

正答: A.

鉄筋コンクリート造は、鉄筋とコンクリートの特性を組み合わせた構造で、耐火性や耐久性に優れるとされる。

解説:

Aが正解。鉄筋コンクリート造は、鉄筋とコンクリートの特性を組み合わせた構造で、耐火性や耐久性に優れるとされる。

要点: 鉄筋コンクリート造 / 根拠: 建物の形質・構造及び種別

Q1116

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【建物】実務判断として、次のうち誤っているものはどれか。

- A. 鉄骨造は、必ず木造と同じ材料だけで構成される。
- B. 登録講習修了者として一部免除を受けるには、修了試験に合格した日から3年以内に行われる試験である必要がある。
- C. 鉄骨造は、柱や梁など主要な骨組みに鋼材を用いる構造である。
- D. 令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均・住宅地・商業地はいずれも5年連続で上昇し、上昇幅も拡大した。

答え・解説

正答: A. 鉄骨造は、必ず木造と同じ材料だけで構成される。

解説:

Aが誤り。正しくは「鉄骨造は、柱や梁など主要な骨組みに鋼材を用いる構造である」。

要点: 鉄骨造 / 根拠: 建物の形質・構造及び種別

Q1117

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【建物】耐震基準について、次の記述のうち正しいものはどれか。

- A. 耐震基準は、宅地建物取引では確認してはならない事項である。
- B. 建物の耐震性は、建築時期や基準への適合状況と一切関係しない。
- C. 建物の安全性は、外観の色だけで法律上十分判断できる。
- D. 建物の安全性を考えるうえで、建築時期や耐震基準への適合状況は重要な確認事項である。

答え・解説

正答: D.

建物の安全性を考えるうえで、建築時期や耐震基準への適合状況は重要な確認事項である。

解説:

Dが正解。建物の安全性を考えるうえで、建築時期や耐震基準への適合状況は重要な確認事項である。

要点: 耐震基準 / 根拠: 建物の形質・構造及び種別

Q1118

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: advanced

【建物】アスベスト調査について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- A. 石綿は、土地の地目だけを表す用語である。
- B. 建物取引では、石綿使用調査の内容などが重要事項説明で問題となることがある。
- C. 令和7年の新設住宅着工戸数は740,667戸で、前年比6.5%減、3年連続の減少であった。
- D. 自然堤防は、河川沿いで周囲よりやや高く、後背湿地に比べると排水がよい土地であることが多い。

答え・解説

正答: A. 石綿は、土地の地目だけを表す用語である。

解説:

Aが誤り。正しくは「建物取引では、石綿使用調査の内容などが重要事項説明で問題となることがある」。

要点: アスベスト調査 / 根拠: 宅建業法35条・施行規則

Q1119

分野: 試験制度 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【試験制度】宅建試験対策として、次のうち最も適切な記述はどれか。

- A. 登録講習修了者は、宅建業法20問がすべて免除される。
- B. 登録講習修了者も、試験問題数は通常受験者と同じ50問で一切変わらない。
- C. 登録講習修了者は、権利関係14問がすべて免除される。
- D. 登録講習修了者は、土地建物の知識及び需給・実務に関する一部の問題が免除され、試験問題数は45問となる。

答え・解説

正答: D.

登録講習修了者は、土地建物の知識及び需給・実務に関する一部の問題が免除され、試験問題数は45問となる。

解説:

Dが正解。登録講習修了者は、土地建物の知識及び需給・実務に関する一部の問題が免除され、試験問題数は45問となる。

要点: 5問免除範囲 / 根拠: 試験一部免除・試験方法

Q1120

分野: 試験制度 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【試験制度】ひっかけ確認。次のうち、誤った理解はどれか。

- A. 登録講習修了者の一部免除は、修了後30年間有効である。
- B. 登録講習修了者として一部免除を受けるには、修了試験に合格した日から3年以内に行われる試験である必要がある。
- C. 台地は、低地に比べると一般に水害リスクが低いが、崖や縁辺部では斜面災害に注意が必要である。
- D. 旧河道は、過去の河川流路であり、軟弱地盤や液状化リスクに注意が必要である。

答え・解説

正答: A. 登録講習修了者の一部免除は、修了後30年間有効である。

解説:

Aが誤り。正しくは「登録講習修了者として一部免除を受けるには、修了試験に合格した日から3年以内に行われる試験である必要がある」。

要点: 登録講習の効力 / 根拠: 試験一部免除

Q1121

分野: 統計 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【統計】アプリ演習：次の記述のうち、法令・制度の理解として正しいものはどれか。

- A. 令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で下落した。
- B. 令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で上昇した。
- C. 令和8年地価公示では、住宅地だけが上昇し商業地は全国平均で下落した。
- D. 令和8年地価公示では、地価動向は公表されていない。

答え・解説

正答: B.

令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で上昇した。

解説:

Bが正解。令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で上昇した。

要点: 令和8年地価公示 / 根拠: 令和8年地価公示

Q1122

分野: 統計 / 形式: 4択 / 難易度: advanced

【統計】実務判断として、次のうち誤っているものはどれか。

- A. 自然堤防は、河川沿いで周囲よりやや高く、後背湿地に比べると排水がよい土地であることが多い。
- B. 令和8年地価公示では、三大都市圏の住宅地だけが公表され、全用途平均は公表されない。
- C. 登録講習修了者は、土地建物の知識及び需給・実務に関する一部の問題が免除され、試験問題数は45問となる。
- D. 令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均・住宅地・商業地はいずれも5年連続で上昇し、上昇幅も拡大した。

答え・解説

正答: B.

令和8年地価公示では、三大都市圏の住宅地だけが公表され、全用途平均は公表されない。

解説:

Bが誤り。正しくは「令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均・住宅地・商業地はいずれも5年連続で上昇し、上昇幅も拡大した。

要点: 地価公示の三大都市圏 / 根拠: 令和8年地価公示

Q1123

分野: 統計 / 形式: 4択 / 難易度: advanced

【統計】新設住宅着工戸数について、次の記述のうち正しいものはどれか。

- A. 令和7年の新設住宅着工戸数は、100万戸を大きく超えた。
- B. 令和7年の新設住宅着工戸数は、前年比6.5%増で3年連続の増加であった。
- C. 令和7年の新設住宅着工戸数は740,667戸で、前年比6.5%減、3年連続の減少であった。
- D. 令和7年の新設住宅着工戸数は、公的統計として公表されていない。

答え・解説

正答: C.

令和7年の新設住宅着工戸数は740,667戸で、前年比6.5%減、3年連続の減少であった。

解説:

Cが正解。令和7年の新設住宅着工戸数は740,667戸で、前年比6.5%減、3年連続の減少であった。

要点: 新設住宅着工戸数 / 根拠: 建築着工統計調査報告 令和7年計

Q1124

分野: 統計 / 形式: 4択 / 難易度: advanced

【統計】新設住宅着工床面積について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- A. 登録講習修了者は、土地建物の知識及び需給・実務に関する一部の問題が免除され、試験問題数は45問となる。
- B. 令和7年の新設住宅着工床面積は、4年連続の増加であった。
- C. 令和7年の新設住宅着工床面積は56,885千㎡で、前年比6.6%減、4年連続の減少であった。
- D. 令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均・住宅地・商業地はいずれも5年連続で上昇し、上昇幅も拡大した。

答え・解説

正答: B. 令和7年の新設住宅着工床面積は、4年連続の増加であった。

解説:

Bが誤り。正しくは「令和7年の新設住宅着工床面積は56,885千㎡で、前年比6.6%減、4年連続の減少であった。

要点: 新設住宅着工床面積 / 根拠: 建築着工統計調査報告 令和7年計

Q1125

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【土地】宅建試験対策として、次のうち最も適切な記述はどれか。

- A. 自然堤防は、周囲より低く水が集まりやすい湿地である。
- B. 自然堤防は、河川沿いで周囲よりやや高く、後背湿地に比べると排水がよい土地であることが多い。
- C. 自然堤防は、海底でのみ形成され宅地には関係しない。
- D. 自然堤防は、火山灰だけが堆積してできる急傾斜地である。

答え・解説

正答: B.

自然堤防は、河川沿いで周囲よりやや高く、後背湿地に比べると排水がよい土地であることが多い。

解説:

Bが正解。自然堤防は、河川沿いで周囲よりやや高く、後背湿地に比べると排水がよい土地であることが多い。

要点: 自然堤防 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1126

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【土地】ひっかけ確認。次のうち、誤った理解はどれか。

- A. 令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均・住宅地・商業地はいずれも5年連続で上昇し、上昇幅も拡大した。
- B. 後背湿地は、一般に周囲より高く水害リスクが極めて低い土地である。
- C. 後背湿地は、一般に低湿で軟弱地盤となりやすく、浸水リスクに注意が必要である。
- D. 旧河道は、過去の河川流路であり、軟弱地盤や液状化リスクに注意が必要である。

答え・解説

正答: B. 後背湿地は、一般に周囲より高く水害リスクが極めて低い土地である。

解説:

Bが誤り。正しくは「後背湿地は、一般に低湿で軟弱地盤となりやすく、浸水リスクに注意が必要である。

要点: 後背湿地 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1127

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【土地】アプリ演習：次の記述のうち、法令・制度の理解として正しいものはどれか。

- A. 旧河道は、過去の河川流路であり、軟弱地盤や液状化リスクに注意が必要である。
- B. 旧河道は、常に岩盤が露出する最も安全な地盤である。
- C. 旧河道は、海岸の砂丘だけを指す用語である。
- D. 旧河道では、地盤リスクを確認する必要は一切ない。

答え・解説

正答: A.

旧河道は、過去の河川流路であり、軟弱地盤や液状化リスクに注意が必要である。

解説:

Aが正解。旧河道は、過去の河川流路であり、軟弱地盤や液状化リスクに注意が必要である。

要点: 旧河道 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1128

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【土地】実務判断として、次のうち誤っているものはどれか。

- A. 建物取引では、石綿使用調査の内容などが重要事項説明で問題となることがある。
- B. 扇状地は、山地から平地へ出るところに砂礫が扇状に堆積した地形で、水はけがよい部分が多い。
- C. 令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で上昇した。
- D. 扇状地では、地下水や湧水が生じることは一切ない。

答え・解説

正答: D. 扇状地では、地下水や湧水が生じることは一切ない。

解説:

Dが誤り。正しくは「扇状地は、山地から平地へ出るところに砂礫が扇状に堆積した地形で、水はけがよい部分が多い。

要点: 扇状地 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1129

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【土地】台地について、次の記述のうち正しいものはどれか。

- A. 台地は、低地より常に浸水リスクが高い。
- B. 台地の縁辺部では、斜面災害を考慮する必要は一切ない。
- C. 台地は、すべて人工的に造成された土地である。
- D. 台地は、低地に比べると一般に水害リスクが低い、崖や縁辺部では斜面災害に注意が必要である。

答え・解説

正答: D.

台地は、低地に比べると一般に水害リスクが低い、崖や縁辺部では斜面災害に注意が必要である。

解説:

Dが正解。台地は、低地に比べると一般に水害リスクが低い、崖や縁辺部では斜面災害に注意が必要である。

要点: 台地 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1130

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【土地】埋立地について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- A. 埋立地は、必ず山地に存在する自然地形である。
- B. 埋立地では、地盤沈下や液状化などのリスクに注意する必要がある。
- C. 旧河道は、過去の河川流路であり、軟弱地盤や液状化リスクに注意が必要である。
- D. 令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均・住宅地・商業地はいずれも5年連続で上昇し、上昇幅も拡大した。

答え・解説

正答: A. 埋立地は、必ず山地に存在する自然地形である。

解説:

Aが誤り。正しくは「埋立地では、地盤沈下や液状化などのリスクに注意する必要がある。

要点: 埋立地 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1131

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【建物】宅建試験対策として、次のうち最も適切な記述はどれか。

- A. 木造建物では、湿気やシロアリ対策は一切不要である。
- B. 木造建物は、湿気・腐朽・シロアリ・防火などへの配慮が重要である。
- C. 木造建物は、建築基準法の構造規制を一切受けない。
- D. 木造建物は、必ず鉄筋コンクリート造より耐火性能が高い。

答え・解説

正答: B. 木造建物は、湿気・腐朽・シロアリ・防火などへの配慮が重要である。

解説:

Bが正解。木造建物は、湿気・腐朽・シロアリ・防火などへの配慮が重要である。

要点: 木造 / 根拠: 建物の形質・構造及び種別

Q1132

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【建物】ひっかけ確認。次のうち、誤った理解はどれか。

- A. 鉄筋コンクリート造は、木材だけで構成される構造である。
- B. 旧河道は、過去の河川流路であり、軟弱地盤や液状化リスクに注意が必要である。
- C. 令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均・住宅地・商業地はいずれも5年連続で上昇し、上昇幅も拡大した。
- D. 鉄筋コンクリート造は、鉄筋とコンクリートの特性を組み合わせた構造で、耐火性や耐久性に優れるとされる。

答え・解説

正答: A. 鉄筋コンクリート造は、木材だけで構成される構造である。

解説:

Aが誤り。正しくは「鉄筋コンクリート造は、鉄筋とコンクリートの特性を組み合わせた構造で、耐火性や耐久性に優れるとされる。」

要点: 鉄筋コンクリート造 / 根拠: 建物の形質・構造及び種別

Q1133

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【建物】アプリ演習：次の記述のうち、法令・制度の理解として正しいものはどれか。

- A. 鉄骨造は、主要な骨組みにわらだけを用いる構造である。
- B. 鉄骨造は、必ず木造と同じ材料だけで構成される。
- C. 鉄骨造は、柱や梁など主要な骨組みに鋼材を用いる構造である。
- D. 鉄骨造では、鋼材は一切用いられない。

答え・解説

正答: C. 鉄骨造は、柱や梁など主要な骨組みに鋼材を用いる構造である。

解説: Cが正解。鉄骨造は、柱や梁など主要な骨組みに鋼材を用いる構造である。

要点: 鉄骨造 / 根拠: 建物の形質・構造及び種別

Q1134

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【建物】実務判断として、次のうち誤っているものはどれか。

- A. 建物の安全性を考えるうえで、建築時期や耐震基準への適合状況は重要な確認事項である。
- B. 建物の安全性は、外観の色だけで法律上十分判断できる。
- C. 令和7年の新設住宅着工戸数は740,667戸で、前年比6.5%減、3年連続の減少であった。
- D. 扇状地は、山地から平地へ出るところに砂礫が扇状に堆積した地形で、水はけがよい部分が多い。

答え・解説

正答: B. 建物の安全性は、外観の色だけで法律上十分判断できる。

解説:

Bが誤り。正しくは「建物の安全性を考えるうえで、建築時期や耐震基準への適合状況は重要な確認事項である。」

要点: 耐震基準 / 根拠: 建物の形質・構造及び種別

Q1135

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: advanced

【建物】アスベスト調査について、次の記述のうち正しいものはどれか。

- A. 石綿は、土地の地目だけを表す用語である。
- B. 石綿に関する事項は、宅建業法上まったく扱われない。
- C. 石綿使用調査の内容は、不動産取引では常に説明対象外である。
- D. 建物取引では、石綿使用調査の内容などが重要事項説明で問題となることがある。

答え・解説

正答: D.

建物取引では、石綿使用調査の内容などが重要事項説明で問題となることがある。

解説:

Dが正解。建物取引では、石綿使用調査の内容などが重要事項説明で問題となることがある。

要点: アスベスト調査 / 根拠: 宅建業法35条・施行規則

Q1136

分野: 試験制度 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【試験制度】5問免除範囲について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- A. 登録講習修了者は、宅建業法20問がすべて免除される。
- B. 登録講習修了者は、土地建物の知識及び需給・実務に関する一部の問題が免除され、試験問題数は45問となる。
- C. 令和7年の新設住宅着工床面積は56,885千㎡で、前年比6.6%減、4年連続の減少であった。
- D. 埋立地では、地盤沈下や液状化などのリスクに注意する必要がある。

答え・解説

正答: A. 登録講習修了者は、宅建業法20問がすべて免除される。

解説:

Aが誤り。正しくは「登録講習修了者は、土地建物の知識及び需給・実務に関する一部の問題が免除され、試験問題数は45問となる。

要点: 5問免除範囲 / 根拠: 試験一部免除・試験方法

Q1137

分野: 試験制度 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【試験制度】宅建試験対策として、次のうち最も適切な記述はどれか。

- A. 登録講習修了者として一部免除を受けるには、修了試験に合格した日から3年以内に行われる試験である必要がある。
- B. 登録講習修了者は、宅建試験を受験しなくても宅建士になれる。
- C. 登録講習を受講すれば、修了試験に合格しなくても一部免除を受けられる。
- D. 登録講習修了者の一部免除は、修了後30年間有効である。

答え・解説

正答: A.

登録講習修了者として一部免除を受けるには、修了試験に合格した日から3年以内に行われる試験である必要がある。

解説:

Aが正解。登録講習修了者として一部免除を受けるには、修了試験に合格した日から3年以内に行われる試験である必要がある。

要点: 登録講習の効力 / 根拠: 試験一部免除

Q1138

分野: 統計 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【統計】ひっかけ確認。次のうち、誤った理解はどれか。

- A. 令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で上昇した。
- B. 扇状地は、山地から平地へ出るところに砂礫が扇状に堆積した地形で、水はけがよい部分が多い。
- C. 令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で下落した。
- D. 木造建物は、湿気・腐朽・シロアリ・防火などへの配慮が重要である。

答え・解説

正答: C.

令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で下落した。

解説:

Cが誤り。正しくは「令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で上昇した。

要点: 令和8年地価公示 / 根拠: 令和8年地価公示

Q1139

分野: 統計 / 形式: 4択 / 難易度: advanced

【統計】アプリ演習：次の記述のうち、法令・制度の理解として正しいものはどれか。

- A. 令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均・住宅地・商業地はいずれも5年連続で上昇し、上昇幅も拡大した。
- B. 令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均は5年連続で下落した。
- C. 令和8年地価公示では、三大都市圏の住宅地だけが公表され、全用途平均は公表されない。
- D. 令和8年地価公示では、三大都市圏の商業地は公表対象外である。

答え・解説

正答: A.

令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均・住宅地・商業地はいずれも5年連続で上昇し、上昇幅も拡大した。

解説:

Aが正解。令和8年地価公示では、三大都市圏の全用途平均・住宅地・商業地はいずれも5年連続で上昇し、上昇幅も拡大した。

要点: 地価公示の三大都市圏 / 根拠: 令和8年地価公示

Q1140

分野: 統計 / 形式: 4択 / 難易度: advanced

【統計】実務判断として、次のうち誤っているものはどれか。

- A. 令和7年の新設住宅着工戸数は、公的統計として公表されていない。
- B. 令和7年の新設住宅着工戸数は740,667戸で、前年比6.5%減、3年連続の減少であった。
- C. 建物取引では、石綿使用調査の内容などが重要事項説明で問題となることがある。
- D. 埋立地では、地盤沈下や液状化などのリスクに注意する必要がある。

答え・解説

正答: A. 令和7年の新設住宅着工戸数は、公的統計として公表されていない。

解説:

Aが誤り。正しくは「令和7年の新設住宅着工戸数は740,667戸で、前年比6.5%減、3年連続の減少であった。

要点: 新設住宅着工戸数 / 根拠: 建築着工統計調査報告 令和7年計

Q1141

分野: 統計 / 形式: 4択 / 難易度: advanced

【統計】新設住宅着工床面積について、次の記述のうち正しいものはどれか。

- A. 令和7年の新設住宅着工床面積は、前年比6.6%増であった。
B. 令和7年の新設住宅着工床面積は56,885千㎡で、前年比6.6%減、4年連続の減少であった。
C. 新設住宅着工床面積は、国土交通省の建築着工統計では扱われていない。
D. 令和7年の新設住宅着工床面積は、4年連続の増加であった。

答え・解説

正答: B.

令和7年の新設住宅着工床面積は56,885千㎡で、前年比6.6%減、4年連続の減少であった。

解説:

Bが正解。令和7年の新設住宅着工床面積は56,885千㎡で、前年比6.6%減、4年連続の減少であった。

要点: 新設住宅着工床面積 / 根拠: 建築着工統計調査報告 令和7年計

Q1142

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【土地】自然堤防について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- A. 自然堤防は、河川沿いで周囲よりやや高く、後背湿地に比べると排水がよい土地であることが多い。
B. 扇状地は、山地から平地へ出るところに砂礫が扇状に堆積した地形で、水はけがよい部分が多い。
C. 自然堤防は、火山灰だけが堆積してできる急傾斜地である。
D. 登録講習修了者は、土地建物の知識及び需給・実務に関する一部の問題が免除され、試験問題数は45問となる。

答え・解説

正答: C. 自然堤防は、火山灰だけが堆積してできる急傾斜地である。

解説:

Cが誤り。正しくは「自然堤防は、河川沿いで周囲よりやや高く、後背湿地に比べると排水がよい土地であることが多い。

要点: 自然堤防 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1143

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【土地】宅建試験対策として、次のうち最も適切な記述はどれか。

- A. 後背湿地は、一般に低湿で軟弱地盤となりやすく、浸水リスクに注意が必要である。
B. 後背湿地は、山頂部の乾燥した平坦地をいう。
C. 後背湿地は、花崗岩だけでできた硬質地盤である。
D. 後背湿地は、一般に周囲より高く水害リスクが極めて低い土地である。

答え・解説

正答: A.

後背湿地は、一般に低湿で軟弱地盤となりやすく、浸水リスクに注意が必要である。

解説:

Aが正解。後背湿地は、一般に低湿で軟弱地盤となりやすく、浸水リスクに注意が必要である。

要点: 後背湿地 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1144

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【土地】ひっかけ確認。次のうち、誤った理解はどれか。

- A. 旧河道は、過去の河川流路であり、軟弱地盤や液状化リスクに注意が必要である。
B. 登録講習修了者として一部免除を受けるには、修了試験に合格した日から3年以内に行われる試験である必要がある。
C. 令和7年の新設住宅着工床面積は56,885千㎡で、前年比6.6%減、4年連続の減少であった。
D. 旧河道は、常に岩盤が露出する最も安全な地盤である。

答え・解説

正答: D. 旧河道は、常に岩盤が露出する最も安全な地盤である。

解説:

Dが誤り。正しくは「旧河道は、過去の河川流路であり、軟弱地盤や液状化リスクに注意が必要である。

要点: 旧河道 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1145

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【土地】アプリ演習: 次の記述のうち、法令・制度の理解として正しいものはどれか。

- A. 扇状地は、河川下流の低湿地だけをいう。
B. 扇状地は、山地から平地へ出るところに砂礫が扇状に堆積した地形で、水はけがよい部分が多い。
C. 扇状地は、泥炭だけで構成される軟弱地盤をいう。
D. 扇状地では、地下水や湧水が生じることは一切ない。

答え・解説

正答: B.

扇状地は、山地から平地へ出るところに砂礫が扇状に堆積した地形で、水はけがよい部分が多い。

解説:

Bが正解。扇状地は、山地から平地へ出るところに砂礫が扇状に堆積した地形で、水はけがよい部分が多い。

要点: 扇状地 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1146

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【土地】実務判断として、次のうち誤っているものはどれか。

- A. 登録講習修了者は、土地建物の知識及び需給・実務に関する一部の問題が免除され、試験問題数は45問となる。
- B. 台地は、低地に比べると一般に水害リスクが低い。崖や縁辺部では斜面災害に注意が必要である。
- C. 台地は、すべて人工的に造成された土地である。
- D. 令和7年の新設住宅着工床面積は56,885千㎡で、前年比6.6%減、4年連続の減少であった。

答え・解説

正答: C. 台地は、すべて人工的に造成された土地である。

解説:

Cが誤り。正しくは「台地は、低地に比べると一般に水害リスクが低い。崖や縁辺部では斜面災害に注意が必要である。

要点: 台地 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1147

分野: 土地 / 形式: 4択 / 難易度: standard

【土地】埋立地について、次の記述のうち正しいものはどれか。

- A. 埋立地では、地盤調査をする意味がない。
- B. 埋立地は、地盤沈下や液状化のリスクが法律上存在しない土地である。
- C. 埋立地では、地盤沈下や液状化などのリスクに注意する必要がある。
- D. 埋立地は、必ず山地に存在する自然地形である。

答え・解説

正答: C. 埋立地では、地盤沈下や液状化などのリスクに注意する必要がある。

解説:

Cが正解。埋立地では、地盤沈下や液状化などのリスクに注意する必要がある。

要点: 埋立地 / 根拠: 土地の形質・地積・地目及び種別

Q1148

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【建物】木造について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

- A. 扇状地は、山地から平地へ出るところに砂礫が扇状に堆積した地形で、水はけがよい部分が多い。
- B. 木造建物は、湿気・腐朽・シロアリ・防火などへの配慮が重要である。
- C. 令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で上昇した。
- D. 木造建物は、必ず鉄筋コンクリート造より耐火性能が高い。

答え・解説

正答: D. 木造建物は、必ず鉄筋コンクリート造より耐火性能が高い。

解説:

Dが誤り。正しくは「木造建物は、湿気・腐朽・シロアリ・防火などへの配慮が重要である。

要点: 木造 / 根拠: 建物の形質・構造及び種別

Q1149

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【建物】宅建試験対策として、次のうち最も適切な記述はどれか。

- A. 鉄筋コンクリート造では、鉄筋は一切使用されない。
- B. 鉄筋コンクリート造は、鉄筋とコンクリートの特性を組み合わせた構造で、耐火性や耐久性に優れるとされる。
- C. 鉄筋コンクリート造は、木材だけで構成される構造である。
- D. 鉄筋コンクリート造は、耐火性をまったく期待できない構造である。

答え・解説

正答: B.

鉄筋コンクリート造は、鉄筋とコンクリートの特性を組み合わせた構造で、耐火性や耐久性に優れるとされる。

解説:

Bが正解。鉄筋コンクリート造は、鉄筋とコンクリートの特性を組み合わせた構造で、耐火性や耐久性に優れるとされる。

要点: 鉄筋コンクリート造 / 根拠: 建物の形質・構造及び種別

Q1150

分野: 建物 / 形式: 4択 / 難易度: basic

【建物】ひっかけ確認。次のうち、誤った理解はどれか。

- A. 登録講習修了者は、土地建物の知識及び需給・実務に関する一部の問題が免除され、試験問題数は45問となる。
- B. 鉄骨造は、柱や梁など主要な骨組みに鋼材を用いる構造である。
- C. 鉄骨造は、主要な骨組みにわらだけを用いる構造である。
- D. 令和8年地価公示では、全国平均で全用途平均・住宅地・商業地のいずれも5年連続で上昇した。

答え・解説

正答: C. 鉄骨造は、主要な骨組みにわらだけを用いる構造である。

解説:

Cが誤り。正しくは「鉄骨造は、柱や梁など主要な骨組みに鋼材を用いる構造である。

要点: 鉄骨造 / 根拠: 建物の形質・構造及び種別